

映画の小箱

ふとしたことで、少年は妹の大事な靴を失くしてしまう。両親に言い出せない2人は、あれこれ思案する。何気ない事件がドラマになる。純粹ゆえに感動を誘う。

金丸弘美=文
text by Hiromi Kanamaru

『運動靴と赤い金魚』

大人にはわからない、小さな生の、大きな喜び

純粹で一途でひたむきで、生の躍動感というものが自然に伝わってくる。これほど生きるといふ体温を感じさせたものはない。面白いのは、すべてのできごとが子供の視点から描写されていることだ。大人からみれば些細なことも、子供にしてみれば重大なできごとになる。逆に、小さな喜びも大きなドラマとなる。兄妹の一足の靴を発端に繰り広げられる物語は、まるで山頂の水源地から溢れ出し川となる水に似て、どこまでも同じに見えながら、さまざまな起伏とうねりと、自然のあるがままゆえの感動をもたらしてくれる。

アリ少年（ミルルフアロク・ハシエミアン）は、お手伝いで、妹ザーラ（バハレ・セツデキ）の赤い靴の修理に出掛けた。ほろびた靴を修理してもらい、帰りに八百屋へ寄ったとき、靴を入れておいた袋を、通りがかりの屑屋に持っていかれてしまう。

アリは泣きそうになる。どこを探してもない。仕方なく家に戻ったのだが、妹に本当のことが言えない。たった一足の靴なのだ。

アリが靴を失くしたと知ったザーラは、大粒の涙を流して、アリを責めた。

アリの家は貧しい。家賃の支払いもどこもおるほどだ。母は絨毯の洗濯を内職にしているが、体の具合がよくない。「新しい靴を買って」なんて、アリにはとても言いにくい雰囲気だ。

アリはザーラに提案する。午前中はザーラがアリの運動靴を履いて通学する。学校から戻ったらすぐ靴を渡して、午後はアリが運動靴で通学する。イランの学校は、午前と午後に分かれているのだ。

ザーラは、しぶしぶアリの提案をのんだ。ザーラはアリの運動靴が嫌だ。ぶかぶかで汚

くて、だいたい可愛らしくない。でも靴がなくて、学校へ行けない。

さあ、ここから、リレーのような通学が始まった。ザーラは学校に行く。授業が終わると走って家に戻る。帰路の途中でスリッパを履いたアリが待ち受け、ザーラから靴をもらおうと全速力で学校だ。これも何日かはうまくいったが、ある日ザーラの授業が延び、帰りに走っているときに靴が脱げて溝に落ち、流れる靴を追っているうちに遅くなってしまった。

アリは怒った。ザーラは泣いた。アリは濡れた靴で通学したが、遅刻となって先生からこっぴどく怒られる。でも、アリは靴の秘密を言えないままだ。

ザーラは学校で自分の靴を見つけた。他のクラスの女の子が、自分の靴を履いている。ザーラは放課後、彼女の家をつきとめ、アリ





とともに家の前まで行ってみた。その子の父親は屑屋を営み、盲目だった。アリとザーラは、自分たちと変わらないような慎ましい家だと知って、なにも言えないままに帰宅した。しかし皮肉なことに、屑屋の女の子は、翌日、綺麗なピカピカの靴を履いてきたのだ。ザーラは彼女に、靴のことを尋ねてみる。

「お父さんが買ってくれたの？」

「前の赤い靴は？」

「廃品回収に出したわ」

ザーラはうなだれた。

アリは、ザーラの靴をなんとかしなければと思いは始める。そんなとき、父親が上流階級の家で庭師をすればお金になると聞きつけ、アリを連れて、自転車で高級住宅地に行くことになった。二人で手分けをして、住宅地のチャイムを押すが、どこも門前払い。

ようやく一軒、子供の声にアリが応えたのがきつかけで、家に入ることができ、庭師の仕事にありついて、たくさんお金をもらった。お父さんは、「これでなんでも買えるぞ」ともうニコニコだ。

「お父さん、ザーラの靴を買ってあげてよ」

「もちろんだ。お前の靴だつて買ってやる」

ところが、帰り道。自転車



のブレーキが利かずに大木にぶつかり、自転車はおじゃん。お父さんもしばらく寝込むことになった。

アリは、また靴のことが言いだしにくくなった。そんなとき、地域の学校選抜のマラソン大会があることを知った。アリは、その賞品に目を剝いた。「三等賞 運動靴」!

アリは、ザーラに誓う。

「三等をとって、お前に新品の靴をやる」

「運動靴は嫌。可愛い靴がいい」

「新品だから女の子の靴に交換できるぞ」

こうしてアリはマラソン大会に臨むことになる。アリは、走る、走る。その気迫。一等でも四等でもだめ。三等を目指して、アリは、走る、走る。ザーラのために走る。

『運動靴と赤い金魚』(1997年 イラン映画)

Children of Heaven Bacheha-Ye Aseman

監督/脚本=マジッド・マシディ

出演=ミル=ファロック・ハシェミアン/バハレ・セツケキ/アミル・ナージ/フェレシュテ・サラバンディ/タリウシュ・モクタリ

(配給=エース・ピクチャーズ)